

## 板橋区の一般就労の状況等について

板橋区では、就労支援センター(愛称「ハート・ワーク」)、就労移行支援事業所、特別支援学校などを通じて、毎年複数名の障がい者が企業に雇用され就労している。障がい者の就労に関しては、雇用する企業側の障がい者理解と障がい特性に応じた仕事の切り出しなど課題も多い。板橋区における関係機関での就労状況は次のとおりである。

### 1 各関係機関での就労状況

#### (1) ハート・ワーク

##### ① 登録者の新規就職状況

(単位:人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
身体障がい者	4	6	7	8	7
知的障がい者	62	60	57	60	41
精神障がい者	24	40	49	41	49
合計※	90(87)	106(101)	113(105)	109(97)	97(91)
登録者数(参考)	810	893	998	1,055	1,013

※各数字は重複障がい者の各障がいを含む実数。合計欄の( )内は実人数。

ハート・ワークに登録している者のうち、毎年100名前後が就職をしている状況である。令和元年度以降、就職者数は新型コロナウイルスの影響等により、若干減少傾向ではあるが、概ね、例年どおりの就職状況となっている。

##### ② 上記の内、新規就職者業種別内訳

(単位:人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
建設業	0	2	0	1	1
製造業	1	3	6	6	1
電話・ガス業	0	0	0	2	4
情報通信業	0	0	4	4	8
運輸業	2	0	2	1	0
卸売・小売業	2	4	6	9	10
金融・保険業	1	2	3	6	3
不動産業	0	0	0	2	4
飲食店・宿泊業	1	3	5	1	3
医療・福祉	1	7	9	11	11
教育・学習支援	0	1	2	4	1
その他	79	79	68	50	45
合計	87	101	105	97	91

## (2) 就労移行支援事業所での就労状況(8事業所合計数)

(単位:人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新規就職者数(板橋区民のみ)	35	27	50
1年以内の離職者数	8	4	8

(令和4年3月現在)

区内には、現在10カ所の就労移行支援事業所があり、上記については、区内の8事業所から回答を得たところである。新型コロナウイルスの影響等により、令和2年度は一時的に就職数が落ち込むが、令和3年度には、再び就職者数が増えている。

## (3) 特別支援学校での就職状況

## ①板橋特別支援学校(HPより引用)

(単位:人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
企業	18	22	17
就労移行支援	8	4	6
就労継続支援A型	3	0	0
就労継続支援B型	16	16	22
生活介護	20	20	14
自立訓練	3	1	1
進学	0	1	1
その他	4	6	1
合計	72	70	62

(令和4年3月現在)

## ②志村学園高等部就業技術科(HPより引用)

(単位:人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事務	40	39	28
製造	3	3	3
物流	6	2	3
小売販売・接客	7	8	8
飲食厨房、調理・食品	10	5	8
清掃	10	16	12
衛生福祉サービス	2	3	6
その他	2	2	11
合計	80	78	79

(令和4年3月現在)

## 2 障がい者雇用を行う企業について

以下の内容は、ハート・ワークを通じて就職した板橋区民の障がい者が働く企業の業務内容の一例である。各企業では、障がい特性に応じた創意工夫がされており、結果として、就労者も一定期間以上雇用が継続されている状況となっている。

### (1) A 社の取組について

主たる業務内容	量販店等に展示されるモバイル端末等の仕分け、梱包、出荷業務
在職者の障がい種別	知的障がい
在職年数	15年
障がい種別に配慮した工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務を作業工程ごとに単純化し、知的障がい者が取り組みやすいよう配慮がされている。</li> <li>・作業の際は、障がい者同士のグループ作業を行うが、相性があり、自分に合わない職員と組むと、混乱してしまうことがあるため、配慮を行っている。</li> <li>・仕事を単純化したことにより、在職歴の長い職員が短い職員に仕事を教えられる OJT が可能となっている。障がい当事者も社員育成の仕事を通じて自分の仕事に自信を持つことが出来ている。</li> </ul>
会社を感じる知的障がい者の特徴	突発的に休むことが少なく、作業工程がたてやすい。作業も正確で、質が高い。

### (2) B 社の取組について

主たる業務内容	集配業務、清掃業務、コピー・スキャン、製造現場での作業
在職者の障がい種別	精神障がい
在職年数	9年
障がい種別に配慮した工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の業務スケジュールを職場全体で見える化し、作業の流れや手順を一人ひとりが把握することで、曖昧な状況から生まれるストレスの削減に取り組んでいる。</li> <li>・臨床心理士による芸術療法(絵を書くなど)を取り入れることで、自分らしくいきいきと働くために必要な自己理解を深めている。</li> <li>・年2回の勤務評価で行動指針を明示し、定期的な面談を行うことで、長く安定的に働くために必要な成長意欲の向上を支援している。</li> </ul>
会社を感じる精神障がい者の特徴	環境に慣れることに時間を要するが、業務への取り組み姿勢はまじめで素直。長く働き、自信がつくことで、当事者グループ内でのリーダー役を任せられるような存在になる。

### 3 障がい者雇用の経験がない企業の障がい者雇用に対する意識について

板橋区地域自立支援協議会「就労支援部会」にて、区内民間企業を対象に、障がい者雇用に関する Web アンケートを実施した。Web アンケートの周知は、東京商工会議所板橋支部等、就労支援部会の関係者を通じて行い、35 社より回答を得られた。

その内、「障がい者雇用の経験がない 22 社(会社規模:1名～44名)」の回答は以下のとおり。

#### (1)障がい者雇用の経験がない企業 Web アンケート調査結果(22 社)

##### ①22 社の業種 (単位:社)

回答内容	会社数
建設業	5
製造業	3
情報通信業	1
棚売業、小売業	7
不動産業、物品賃貸業	4
学術研究、専門・技術サービス業	1
サービス業(他に分類されないもの)	1

##### ②今後、障害者雇用をする予定 (単位:社)

回答内容	会社数
積極的に雇用したい	0
職場実習であれば受け入れてもよい	0
状況次第	11
障がい者を雇用する予定はない	11

##### ③障がい者雇用に踏み切れない理由 (単位:社)

回答内容(複数回答可)	会社数
雇用するだけの仕事がない	13
業務内容が適さない	5
安全確認が不安	4
受け入れる施設・設備がない	10
障がい者に適した仕事がわからない	8
社内の理解や支援が得られない	2
募集しているが採用できない	0

④障がい者雇用にあたり、課題や心配事 (単位:社)

回答内容(複数回答可)	会社数
障がい者に対する知識がなく、どう対応していいか不安	12
労働能力、意欲が維持するか不安	6
仕事以外でも配慮が必要かどうか	9
設備・施設の改善が必要かどうか	14
社内の理解が得られるかどうか	7
その他	1

⑤障がい者雇用に関して、最も関心があること (単位:社)

回答内容	会社数
勤務中の支援やサポート体制	5
障がい者への賃金・人事考課を含めた待遇面	4
障がい者も含めた職員同士の協調性	2
障がい者雇用に対する社員側の理解促進	3
適切な仕事内容	8

#### 4 障がい者の就労に対する意識について

(1) 収入を伴う仕事の有無(令和2年度 板橋区障がい者実態調査より一部引用) (単位:%)

回答内容	身体障がい (515名)	知的障がい (381名)	精神障がい (448名)
収入を伴う仕事をしている	37.5	47.8	26.3
収入を伴う仕事をしていない	55.5	45.1	67.6
無回答	7.0	7.1	6.1

(2) 上記(1)で「収入を伴う仕事をしている」障がい者の就労形態について (単位:%)

回答内容	身体障がい (193名)	知的障がい (182名)	精神障がい (118名)
自営業	10.4	1.1	8.5
会社・団体等の正規の職員	57.0	15.4	24.6
アルバイト、臨時、パート、嘱託等	25.9	28.0	44.9
内職	-	-	1.7
福祉的就労(就労継続支援A型・B型など)	4.7	51.1	15.3
その他	1.0	3.3	5.0
無回答	1.0	1.1	-

収入を伴う仕事については、身体障がい者は、「会社・団体等の正規の職員」、知的障がい者の場合は、「福祉的就労」、精神障がい者は、「アルバイト、臨時、パート、嘱託等」の割合が高くなっている。

## (3)前頁(1)で「収入を伴う仕事をしていない」と回答した理由について

(単位:%)

回答内容(複数回答可)	身体障がい (286名)	知的障がい (172名)	精神障がい (303名)
就職に向けて、企業面接を受けるなど、活動中である	3.8	1.7	4.6
現在、就職のために学校に通ったり、訓練をしている	1.0	3.5	5.6
障がいや病気のために働くことができる状態でない	42.3	61.0	53.5
働く自信がないから	13.6	11.6	32.3
希望に合った求人が見つからないから	7.7	7.6	11.6
医師や家族に止められているから	4.5	3.5	14.9
高齢だから	38.8	17.4	32.7
働く必要がないから	11.9	4.1	8.3
その他	11.2	16.3	10.6
特に理由はない	4.5	4.7	5.0
無回答	2.8	6.4	1.3

いずれの障がいにおいても「障がいや病気のために働くことができる状態でない」の回答割合が一番高くなっている。続いて、いずれの障がいでも、「高齢だから」の回答割合が高くなっている。一方で精神障がいについては、「働く自信がないから」との回答割合も高くなっている。

## (4)仕事をする上での困りごと

(単位:%)

回答内容(複数回答可)	身体障がい (515名)	知的障がい (381名)	精神障がい (448名)
給与・工賃などの収入が少ない	22.8	43.4	51.7
勤務時間、日数が多く体力的に不安	14.0	4.9	19.5
通勤が大変	19.7	8.2	20.3
業務内容が合わない	3.6	2.7	10.2
職場の人間関係	13.5	20.9	35.6
職場の設備が障がいに対応していない	5.7	3.3	5.9
障がいに対する職場の理解不足	17.1	9.3	21.2
職場外で相談相手がいない	3.1	9.9	17.8
その他	4.7	4.4	16.9
特に困っていることはない	40.4	33.0	15.3
無回答	2.1	6.0	5.9

知的障がい、精神障がいでは「給与・工賃などの収入が少ない」との回答割合が高くなっている。一方で、身体障がいでは、「特に困っていることはない」という回答割合が一番高くなっている。そのほか、「職場の人間関係」や「障がいに対する職場の理解不足」との回答割合が高くなっている。